教　育　と　文　化

みんなで考えよう
人権・同和問題
No.２４７

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

小鳥の死に思う

畑仕事を終えて車に戻ると、ヒヨドリのなきがらが横たわっていました。いたたまれずに畑の隅に埋葬し、手を合わせて家路についたのですが、イノシシの仕業でしょうか、後日、畑にはヒヨドリの羽が散乱していて切ない気持ちになりました。何気ない日常のひとコマですが、私たちは小さな命にも心を痛め涙します。

この『相手のことを考える』『相手を思いやる』という心は、自然界の厳しい生存競争の中で、生命（いのち）をつなぎながら育んできた人類の特性と言われています。人間に近いとされるチンパンジーでも、持ち合わせていない心遣いです。

一方で、私たちの心の中には、『差別心』という邪悪な影も巣くっています。例えば、新型コロナウイルス感染症の感染者やその家族に対するプライバシーの侵害や、治療に奮闘する医療従事者が一部の人の心無い言動に傷つけられるニュースを目にします。

人類の歩みは感染症の歴史であると同時に、差別との闘いでもあります。例えば、ハンセン病は感染力が弱い細菌によって発症する病気であるにもかかわらず、国の誤った強制隔離政策によって、『怖い伝染病』という誤解が社会に浸透し、元患者やその家族に対する深刻な人権侵害を招きました。『うつされる』という恐怖心が、『差別』という心のウイルスを生み出したのです。歴史は私たちに大切なことを教えてくれています。

隣の人を幸せにするのも、不幸にするのも、私たちの心のありよう次第です。人類が育んできた『想像し思いやる心』『相手の立場に立って考え助け合う心』が、今こそ求められているのではないでしょうか。

郷土の文化財

伊万里の城館跡シリーズ㉓

●問合先　生涯学習課文化財係（☎㉒１２６２）

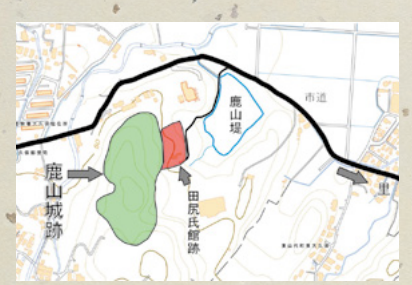
鹿山城跡

鹿山城跡（ろくざんじょうあと）は、東山代町里字鹿山に所在する安土桃山時代の山城跡と伝えられています。

城跡は里集落の南西、標高約90㍍の鹿山に立地しています。主郭は南北42㍍、東西16㍍あり、南北と西側を土塁で固めています。主郭の西と北の土塁の外側には、さらに畝状竪堀群（うねじょうたてほりぐん）を配し、南は堀切が控えています。主郭北東隅の虎口（こぐち）から東斜面にかけて帯曲輪（おびくるわ）が連なり、東側に隣接する田尻氏館跡までのルートが見えます。防御機構が充実している一方で、居館との連絡も意識されていることから、戦時の迅速な対応と堅固な防衛力に優れた城跡であったと考えられます。

西松浦郡誌によると、田尻氏が１５８９年（天正15年）に入部した後に、新館（鹿山城）を構えたとしていますが、城跡の遺構は、より古い戦国時代の特徴があることから、創築年代は、さかのぼる可能性があります。

鹿山城跡は、周辺の市道までは車で訪れることができますが、市道から鹿山城跡に向かうには、徒歩で進む必要があります。草木が繁茂している場所もありますので、ハイキング程度の服装がよいでしょう。



↑鹿山城跡